

新基地建設反対名護共同センターニュース

県民が安倍政権の暴走止めた！ 「新たな出発点、さらに現場で頑張ろう」

三線の日に「和解」の情報 「工事中止だ！」ゲート前でカチャーシー



3月4日は、三線(さんしん)の日。沖縄全県だけでなく世界的にいっせいに三線の演奏会が行われました。この日、ゲート前には250人余が駆けつけ、早朝と正午から三線の演奏会が行われました。

「かじやでい風」を大合奏
正午の時報にあわせて三線や琴、太鼓の演奏者40人ほどがゲート前で大合奏を始めました。沖縄の「かじやでい風」「ごえん節」「べのき節」の古典音楽3曲を演奏。このあと踊りが披露されました。

「和解」の情報に歓声
12時30分頃、「先ほど安倍首相が和解に応じました」と報告されると大歓声。ゲート前の国道を挟んで両方でカチャーシーの踊りが続きました。



三線の大合奏には、共同センターのスタッフも猛特訓して参加しました(2列目の4人)

油断せずたたかいかい発展を
発言者は口々に「安倍政権が和解に応じたのは、知事を先頭にした県民のたたかいかいに追い詰められたからだ。しかし、安倍首相が辺野古をあきらめたわけではない。新たな出発点だ。油断することなく現場でたたかいかいをいっそう強め、翁長知事を支えよう」と訴えました。

国の強硬手段が破綻

赤嶺政賢衆議員の談話



強権的な手法で民意を押しつぶそうとした安倍内閣のやり方が破綻した。工事中

止に追い込んだのは県民の団結の力だ。政府は建白書を尊重し、新基地建設断念、普天間基地閉鎖・撤去を決断すべきだ。

不破哲三さん講演会

3月16日(水)午後6時半～
会場・那覇市民会館大ホール



不破哲三さんが「科学の目」で沖縄問題について語ります。絶対に聞き逃しません。お誘いあわせてご参加を！

「基地は抑止力でない。標的になるだけ」石川文洋氏が海から訴え



辺野古基金の共同代表でもあるカメラマンの石川文洋さん(写真左上の中央)は4日、平和丸に乗船しました。石川さんは、平和丸のスピーカーを使い海上保安庁の職員に向かって次のように訴えました。

戦争は民間人を殺し、
自然・環境を破壊し尽くす
「私はこれまでベトナムやアフガニスタンなど世界各地の戦争現場をみてきました。戦争で殺されるのは罪もない民間人がほとんどです。特に女性や子どもが多く犠牲になります。また、戦争は自然や環境まで破壊し尽くします。辺野古の新基地は抑止力のためといわれますが、基地は決して抑止力にはなりません。それどころか、敵の標的になるだけです。海上保安庁の職員の皆さん。みなさんも平和のために働きたいといまの職業に就いたと思います。もう一度、戦争や基地の問題について考えて見ましょう。共に新基地を造らせないように力を合わせましょう。」